

## 紫竹ガーデン

### 紫竹おばあちゃんの不思議の国

紫竹ガーデンは、夫を亡くした 63 歳の女性が、失意の中「セカンドライフ」に何か役立つことをしようと始めたカラフルな作品です。

紫竹昭葉さんは、当時、耕作放棄地となった農地を購入し、ゆっくりと現在のお花のオアシスへと変貌させました。「紫竹おばあちゃん」として知られる彼女は、現在 90 代です。日本中の園芸ファンは彼女を賞賛します。そして、どこから来た園芸家であっても、彼女の本や彼女についての話を聞いて、みんな紫竹おばあちゃんを知っています。

#### 愛のある労働

紫竹ガーデンは全て手作業で耕作・植栽されており、その多くはおばあちゃん自身によるものです。おばあちゃんと助手の方々は、化学薬品や肥料を使用せず、また庭の灌漑もしません。彼女はいつもポケットいっぱいの種を持っていて、ガーデンのキャンバスに付け足す場所を常に探しています。

ここでは、2500 程の花の品種が、季節ごとに絶え間なく咲いています。紫竹ガーデンには、野花、バラ、周縁植物などのエリアがあります。しかし、これらの境界は不明瞭に保たれており、その結果、まるでクロード・モネの印象派の傑作のように見えるのです。

#### 朝食ビュッフェ

カフェでの朝食ビュッフェとピクニックランチは、多くの訪問者を呼びます。午前中のお食事では、北海道産の食べ物で作られた料理でいくつかのテーブルが埋まります—農場で採れた新鮮な野菜、果物、魚、肉、鶏肉、魚、米、パスタ、焼き菓子などの家庭料理。

#### 家族と友達

紫竹一家も含め、ここにいるすべての人がガーデンで紫竹おばあちゃんを手伝う時間を作っています。この地域に住む農家さんや地元住民が、収穫したばかりの果物や野菜を持って立ち寄ることもよくあります。地元の恵みは通常、カフェでの朝食ビュッフェや他の食事に来園者とともにシェアされます。

ガーデンの周りではやらなければならないことが常にあります。春の終わりに定期的に発生する絶え間ない雨は、しばしば小川の氾濫を引き起こします。紫竹ガーデンの地域に住む多くの人々は、このガーデンの繁栄が絶えることがないよう、自発的に助け合っています。

紫竹おばあちゃんは、ガーデンやレストランのカフェによくいるので、どちらかに行けば、おばあちゃんと会える可能性は高いです。彼女は快く来園者と会話したり、一緒に写真を撮ったりしてくれます。

いつ訪問するか

紫竹ガーデンは、4月中旬から11月上旬まで毎日早朝から夕方まで営業しています。このリンク[[What To Do ページへのリンク](#)]から、紫竹ガーデンでできることをご確認ください。